

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475400966
法人名	(株)ウエル
事業所名	グループホーム なんてん長嶺荘
所在地 (電話番号)	仙台市太白区长嶺8-10 (電話) 022-748-1622
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴ヶ岡4-2-8 テルウエル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(20年2月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	13 人
非常勤	2 人
常勤換算	14 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,500 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(113,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.5 歳	最低	72 歳	最高	97 歳
協力医療機関名	小林内科医院・仙台往診クリニック・広南病院・日赤病院・小野寺歯科医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にある2ユニットのこのホームの経営母体は、もりやグループであり(株)ウエルは隣接するウェルディサービスの他に特定施設入居者生活介護・訪問介護・居宅支援介護・小規模多機能型居宅介護・訪問看護ステーション等、様々なサービスを提供している。それに加えて1月にオープンし、又4月にオープン予定の2箇所2ユニットのグループホームがある。「利用者本位の個別ケアを心がけている。楽しく生きがいのあるケアを満たすのがポイント」という言葉通り、ホーム内全体のコミュニケーションが取れていて家族からの信頼も厚い。終末期を迎えるケアも自然のここと受け止め、訪問医師・訪問看護ステーション連携24時間サポート・家族の協力によりこれまでに3回の看取りを経験していることを評価したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の要改善点は特に無かった。強いて言えば献立表をお便りとともに送付して家族とのパイプ役にするよう検討してみたいかという点について、行事の時などの食事の写真をホーム便りに掲載して郵送している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価をグループホームのマニュアルと捉え、事業所全体で考えるということで全職員に書いてもらい、それぞれのユニット長がチェックしたものを管理者がまとめた。外部評価の意味合いも説明し、これまでスタッフが気付かなかった事等を改めて考えるきっかけになった。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは地域包括支援センター所長・民生委員・町内会役員(福祉部副部長)・入居者家族・管理者・桜木ユニット長・青山ユニット長からなり、平成18年5月より2ヶ月に1度ずつこれまで11回開催されている。回を重ねるごとに内容も具体的になり、地域との交流を図るパイプ役にもなっている。認知症についての窓口を開き近所の人からの相談を受けたり、防犯委員を引き受けて児童の登下校時に見守りに立つ等積極的に参加するようになった。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時にユニット長が担当職員が対応し、対話の中から意見等を汲み取り支援に活かしている。家族会があり行事などの時に来てもらい、コミュニケーションを通して信頼関係を築いている。家族アンケートからも信頼関係が出来ていることがうかがえる。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会しており役員会・避難訓練・七夕盆踊りなどの行事にも参加している。回覧板にホーム便りを出している。民生委員も協力的であり、5月には近くにコミュニティセンターが出来ることから踊りやハーモニカ以外のボランティアの来訪も期待したいところである。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念である「ゆったり 楽しく 寄り添って」の奥深い意味を考えている。スタッフミーティングの時に皆で話し合い、地域密着型の意味を含めた理念について見直すべく、検討中とのことである。	○	地域生活の継続、地域との関係強化は今後益々重要視される課題でもあり、速やかに見直しをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ゆったり出来るためにはシフトや配置の工夫。楽しくとは、ケアプラン作成時に出来ないことに注意がいきがちであるが視点を換え、入居者が笑顔になるのはどんな時かを拾い出してプランに取り入れるなど理念を実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人や馴染みの人の訪問が少ないという問題点はあるが、町内会に加入し回覧板でホーム便りを出したり、地域の行事に参加している。ゴミステーションの掃除や学童の登下校の見守りをするなど積極的に関わり交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員に記述してもらった。基本的な部分は同じでも1項目ずつ取り組むことにより気づきが生まれた。その結果、現在不足しているマニュアルを見直すきっかけとなった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまでに11回開催されており、回を重ねるごとに内容が充実してきた。課題等話し合いをして改善し、ケアに活かしている。外部へも報告をし、地域との交流が図りやすくなったとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	仙台市介護研修センターより、認知症介護実践者研修の実習生をホーム開設以来ずっと受け入れている。運営推進会議などに行政からの参加はないが、介護保険制度について不明な点等の相談にのって貰っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当制にし家族の面会時に話し合いをして、面会が難しい家族には必要に応じて電話で連絡をしている。ホーム便りに近況報告の手紙を添え、金銭管理報告と共に毎月郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情以前の段階での話し合いを大切にし、ケアにつなげている。玄関に苦情受付箱を設置し、複数の外部苦情申し立て機関があることも話しているが、第三者的な介護相談員の受け入れを検討してもらえよう願いたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の人員やシフトについて毎月管理者会議を行い、運営管理者にも認識してもらっている。働きやすい職場の構築により職員の異動や離職は少ない。やむを得ず離職や異動がある場合は引継ぎや紹介など、ダメージを少なくするよう最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修としては宮城県認知症グループホーム連絡協議会主催の研修会や県・市・外部団体等主催の各種研修会に参加している。参加した人を中心の勉強会や各種社内研修が定期的、継続的に行われ職員のレベルアップにつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム連絡協議会、全国グループホーム連絡協議会に加入して、研修や交流会等を通じて質の向上につなげている。他事業所との交流があり、研修の受け入れ等も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフが何度も自宅を訪問して話し合い、本人と家族に入居体験などをしてもらう。その上で馴染みの関係を作り、安心して生活できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が笑顔になれば入居者も笑顔になることを実感し、戦時中の話を聞いたり料理を教えてもらうなど、楽しみを持ちながら感動を共にしている。行動を見守りながらさりげなく支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声がけし、話しの中で出てくる生活歴や想いを受け止め支援している。意志疎通ができていく方には、家族から話しを聞いたり、アセスメントからの情報を参考に状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・入居者からの意見や要望を聴いて、ミーティング時にスタッフと意見交換をし、東京センター方式でケアプランを作成している。写しは家族に送っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアスタッフを含めてカンファレンスを行い、3ヶ月に一度見直しをしている。必要に応じてそれ以前でも検討して見直しを行い、安心して生活できるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は原則としては家族の付き添いだが、実際はスタッフが付き添うことが多い。家族にその都度報告をしている。本人の希望があれば行きつけの美容院・映画・ひいきの店に洋服を買いに行くなど支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望によりかかりつけ医を選んでもらっているが、終末期のことも考慮し協力医療機関・往診クリニック(24時間サポート)・訪問看護ステーションとも連携し支援の体制は整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居する時点で終末期のことを念頭に看取りのインフォームドコンセントを行い、関係者全体の方針を統一、共有し成文化されている。住み慣れた所で個々の希望に合わせた看取りをこれまで3回経験している。他の入居者の影響や混乱が心配されたが、その段階を見ていたこともあり考えていた以上に自然に受け止められ、その方のお気に入りだった洋服を着せて皆でお見送りをするなど最大限の対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居した時に呼び方の希望を聞いたり、自尊心を傷つけないように配慮して支援している。記録等は外部の人の目に触れないように保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の表情や体調、希望に合わせて食事・洗濯たたみ・掃除・買い物・菜園・趣味活動・散歩・外出等幅広く支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	居間の前のウッドデッキに置いたりんごを小鳥がついばんでいるのを眺めたり、適当な音量の音楽を聞きながらの美味しい食事は、会話や笑い声もあり残さず食べていた。職員はさりげない支援をしていた。誕生日や行事の時は希望を聞いてお寿司・鰻・煮物などなるべく希望に添えるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回の入浴であるが、体調によっては清拭や足浴をしている。夜間入浴希望者も多く、希望に添えるよう支援している。拒む人には入浴剤や脱衣室に歌手のポスターを貼ったり、CDで音楽を掛けるなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の入居者の持てる力の範囲内で負担を掛けないように配慮しながら、食事作り・洗濯たたみ・犬の散歩・小鳥の世話などをお願いし、必ず感謝の言葉を添えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や天気の良い日には散歩に出かけ、季節感を肌で感じられるような支援をしている。入居者が楽しみにしている遠方へのドライブの機会を少しでも増やせるよう一層の努力を期待したい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯の意味で施錠しているが、日中は鍵をかけない。外出傾向の入居者については、スタッフは本人にとって意味のある行動であると理解し、気付かれないように配慮しながら見守りを徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火・震災についてのマニュアルに従い、年2回夜間も想定した訓練を行い、地域への協力体制をお願いしている。事業所としての備蓄をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にメニューのチェックをしてもらい、アドバイスを受けている。糖尿病や嚥下障害があり飲み込みの難しい入居者には、工夫をした食事を提供している。食事・水分量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓からの明るい日差しと、目の前に見える、くるみ・柿・桐の大木が季節を感じさせてくれる。セミパブリックスペースも数箇所配置され、それぞれ趣の違う憩いの場になっている。ミニ図書館には様々な本が並び童話も人気がある。乾燥しがちなので加湿器を使って湿度に気配りしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓がなされ清潔である。家族の協力で馴染みの家具や仏壇などが持ち込まれ、ゆったりくつろげる雰囲気になっている。元気の出る色合いのアートフラワーが壁に飾られるなどの工夫も見られる。		